



令和3年3月5日

住宅火災にご注意を!!

～令和2年中の火災概要（速報値）まとまる～

令和2年中の火災の概要（速報値）がまとまりました。これを見ると、火災件数及び焼損床面積が大きく減少した一方で、住宅火災は1,555件で昨年より12件増加し、特にガスこんろの火災が384件で昨年より63件増加しました。火災に至った理由別にみると、「放置する・忘れる」の146件が最も多く、前年と比べて25件増加しています。また、自殺を除いた火災による死者は78人で、前年より13人減少しました。一方で、火災による死者のうち65歳以上の高齢者は、58人と前年より2人増加しました。

今後もテレワークの増加などにより自宅で過ごす時間が増えると予想されることから、火災予防運動期間中であるこの時期を捉え、東京消防庁では、引き続き、住宅火災の予防や、消火器の取扱方法等について呼びかけてまいります。

1 住宅での火災予防のポイント

(1) ガスこんろを使用する場合の注意点は、次のとおりです。

ア 調理中はガスこんろから離れないようにしましょう。

イ ガスこんろの周囲に燃えやすいものを置かないようにしましょう。

ウ 防災製品のエプロンやアームカバーを使用しましょう。

エ 炎が鍋底からはみ出さないように調節しましょう。

オ 安全機能（Siセンサー）付きのガスこんろを使用しましょう。

カ ガスこんろの使用経験が少ない人は、取扱い方法をよく確認しましょう。

(2) 消火器による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に非常に効果的です。火を使う場所には、消火器を備えましょう。

一般住宅向けの小型で軽量の住宅用消火器や、片手でも使用できるエアゾール式消火具もあります。

(3) 住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）は、火災予防条例により、全ての住宅に設置が義務化されています。火災の早期発見、通報、初期消火に有効ですので、適切に設置し、定期的に点検するとともに、設置後10年を目安に機器本体を交換しましょう。

2 令和2年中の火災の概要（令和3年2月1日時点の速報値）

詳細は別紙をご参照ください。

3 火災予防広報の実施

(1) のんさん（一日消防署長）による火災予防等の呼びかけ

令和3年春の火災予防運動イベントにおいて一日消防署長をつとめていただいた「のん」さんによる、消火器の取扱要領などの各種動画を、当庁HPやYouTubeなどの公式SNS等にて紹介し、火災への注意喚起などを行っています。

当庁HP「春の火災予防運動特設ページ」

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/inf/r03/01/yobouunndou/movie.html>



(2) ゲッコウレスキュープロジェクト

火災から命を守る住警器の設置・点検・交換の促進を目的に立ち上げた、都民参加型のプロジェクトです。仮想の新部隊「ゲッコウレスキュー隊」を発隊させ、点検等を実施した方を隊員に任命し、都民の皆様の具体的な行動へ結びつけるものです。

ツイッター等により、都民の皆様が点検等を実施している画像を募集し、その画像に「ゲッコウレスキュー隊」の隊員エンブレムを加工して返信することで、同隊員に任命します。投稿いただいた画像は、広報用ポスターとして活用し、都民の皆様とともに住警器の点検等を進めていきます。

ゲッコウレスキュープロジェクト

https://twitter.com/Tokyo_Fire_D_GR



問合せ先

東京消防庁 (代)	電話 3212-2111
予 防 部 調 査 課	内線 5066 5068
防 災 部 防 災 安 全 課	内線 4192 4195
広 報 課 報 道 係	内線 2345~2350

令和 2 年 中 の 火 災 の 概 要 に つ い て

- 注1 令和2年中の火災件数等の数値は、速報値であり確定値ではありません。
- 注2 小数点以下の数値は四捨五入しており、個々の数値の和が合計と合致しない場合があります。
- 注3 表中の符号「-」は0又は該当数字なし、「▼」は減少を示しています。
- 注4 治外法権火災（大使館等の治外法権対象物から出火した火災）及び管外からの延焼火災は、件数のみ計上しています。
- 注5 年齢区分は以下のとおりです。
- 乳 幼 児・・・5歳以下
 - 未 成 年・・・6～19歳
 - 成 人・・・20～64歳
 - 前期高齢者・・・65～74歳
 - 後期高齢者・・・75歳以上
 - 高 齢 者・・・前期高齢者と後期高齢者の合算
- 注6 負傷程度は以下のとおりです。
- 重 篤・・・生命の危険が切迫しているもの
 - 重 症・・・生命の危険が強いと認められたもの
 - 中 等 症・・・生命の危険はないが入院を要するもの
 - 軽 症・・・輕易で入院を要しないもの
- 注7 建物構造関係は以下のとおりです。
- 耐 火 造・・・耐火建築物をいい、柱や壁などが鉄筋コンクリートなどで造られたもので、外壁の開口部に防火戸等を設けた建築物をいう。
 - 準 耐 火 造・・・準耐火建築物をいい、耐火建築物以外の建築物で、柱を鉄骨、壁をALC（軽量気泡コンクリート）などで造られたもので、外壁の開口部に防火戸等を設けた建築物をいう。
 - 防 火 造・・・防火構造建築物をいい、外壁や軒裏が鉄鋼モルタルなどで造られ、屋根を瓦などで造るか又はふいた建築物をいう。
 - 木 造・・・木造建築物をいい、防火構造建築物以外の建築物で、柱やはりが主に木で造られたものをいう。
 - その他構造・・・木造、防火造、準耐火造及び耐火造に分類できないもの。
- 注8 焼損程度は以下のとおりです。
- 全 焼・・・建物の70%以上を焼損したもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないもの
 - 半 焼・・・建物の20%以上70%未満を焼損したもの
 - 部 分 焼・・・全焼、半焼、ぼやに該当しないもの
 - ぼ や・・・建物の10%未満を焼損したもので、かつ、焼損床面積又は焼損表面積が1平方メートル未満のもの、又は収容物のみを焼損したものをいう。
 - 延焼拡大率・・・火災件数に占める部分焼以上に延焼した火災の割合

注9 損害関係は以下のとおりです。

焼損床面積・・・建物の焼損が立体的に及んだ場合（耐火建物の内部が、立体的に焼損した場合を含む。）に、建物としての機能が失われた部分について、その部分を床面積の算定方法（その部分の水平投影面積）で算定する。

焼損表面積・・・建物の焼損が平面的で、立体的でない場合（耐火建物の内部が、表面的に焼損した場合を含む。）に焼損部分を表面積で算定する。

主な出火原因分類の内訳は以下のとおりです。

分類	内容
放火・疑い	放火、無意識放火、放火の疑い
火遊び	火遊び
たばこ	たばこ
ガステーブル等	ガスこんろ、ガステーブル、オープン付ガステーブル、カセットこんろ
たき火	たき火、焼却火
風呂がま（家庭）	風呂がま
溶接器	電気溶接器、溶接器、切断器、溶融片
石油ストーブ等	石油ストーブ、石油ファンヒーター、ガソリンストーブ、石油火鉢
花火	煙火、花火
マッチ	マッチ
ガスストーブ	ガスストーブ、ガスファンヒーター、ガス火鉢、簡易型ガスストーブ
電気ストーブ	電気ストーブ、温風機、ハロゲンヒーター、カーボンヒーター
電気コード	電気コード
取灰	取灰
差込みプラグ	差込みプラグ
ごみ焼却炉	ごみ焼却炉
ライター	ライター
電気こんろ	電気こんろ、電気クッキングヒーター
配電線	配電線・き電線（高圧・低圧）
コンセント	コンセント
業務用ガスレンジ	業務用オープン付ガスこんろ
ロウソク	ロウソク、灯明、ちょうちん、燈ろう、走馬灯
蚊取線香	蚊取線香
漏電	漏電により発熱した部分
屋内線	屋内線
テレビ	テレビ
白熱灯スタンド	白熱灯スタンド
蛍光灯	蛍光灯、蛍光灯スタンド
コンデンサ	コンデンサ（高圧・低圧）、コンデンサリアクトル
業務用ガスこんろ	業務用ガスこんろ
ガスバーナー	ガスバーナー
火のついた紙	火のついた紙
電気冷蔵庫	電気冷蔵庫
モーター	単相モーター、三相モーター
その他	上記以外

※器具付きコードは出火した製品の本体に、消したはずのふとんはその他に計上しています。

1 火災の発生状況

最近5年間の火災状況をみたものが表1です。

表1 最近5年間の火災状況

年別	合計	建物火災					林野	車両	船舶	航空機	その他	治外法権	延焼外から火災の	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや											
平成28年	3,982	2,766	75	89	421	2,181	1	275	3	1	934	2	-	17,529	6,886	83 (15)	853
平成29年	4,205	2,837	84	77	474	2,202	3	216	-	-	1,148	1	-	20,719	8,275	79 (14)	758
平成30年	3,973	2,696	64	87	447	2,098	2	225	3	-	1,046	1	-	18,604	12,001	86 (12)	798
令和元年	4,089	2,904	81	83	455	2,285	5	206	1	-	969	3	1	18,295	7,836	108 (17)	705
令和2年	3,694	2,668	63	73	404	2,128	1	216	-	-	808	1	-	16,081	7,393	88 (10)	710
5年平均	3,989	2,774	73	82	440	2,179	2	228	1	-	981	2	-	18,246	8,478	89 (14)	765
前年比	▼395	▼236	▼18	▼10	▼51	▼157	▼4	10	▼1	-	▼161	▼2	▼1	▼2,214	▼443	▼20 (▼7)	5
5年平均比	▼295	▼106	▼10	▼9	▼36	▼51	▼1	▼12	▼1	-	▼173	▼1	-	▼2,165	▼1,085	▼1 (▼4)	▼55

注1 死者欄の（ ）内の数値は自殺行為による死者を内数で示しています。

2 治外法権火災及び管外からの延焼火災は、件数のみ計上しています。

- 令和2年中の火災件数は3,694件で、当庁が消防事務の受託を開始した昭和35年以降で最少。
- 1日あたりの火災件数は、平均10.1件発生。
- 全火災件数に占める建物火災の割合は72.2%で、前年(71.0%)と比べて1.2ポイント増加し、全火災件数の7割以上を占める。
- 延焼拡大率(建物火災に占める部分焼以上の火災の割合)をみると20.2%で、前年(21.3%)と比べて1.1ポイント減少。
- 令和2年中の焼損床面積は16,081平方メートルで、当庁発足以来最少。

令和2年中のうち特筆される火災は、以下のとおり。

- 産業廃棄物処理施設から出火し、約500平方メートルを焼損した火災。なお、死傷者は発生していない。
- 複合用途超高層建物の地下駐車場から出火し、1,000人以上が避難した火災。なお、負傷者が1人発生している。
- 建築中の超高層建物の地階から出火し、2,000平方メートル以上焼損した火災。なお、死傷者は発生していない。

(2) 火災による負傷者

負傷程度別負傷者発生状況をみたものが表4、年齢区分別負傷者発生状況をみたものが表5です。

表4 最近5年間の負傷程度別負傷者発生状況

年 別	合 計	負 傷 程 度				負 傷 者 区 分	
		重 篤	重 症	中 等 症	軽 症	一 般 人	消 防 活 動 従 事 者
平成28年	853(8)	21(5)	99(3)	191(-)	542(-)	842	11
平成29年	758(9)	25(8)	83(1)	200(-)	450(-)	750	8
平成30年	798(19)	42(13)	93(5)	197(1)	466(-)	787	11
令和元年	705(9)	29(5)	83(3)	168(1)	425(-)	699	6
令和2年	710(3)	17(1)	68(1)	190(1)	435(-)	705	5
5年平均	765(10)	27(6)	85(3)	189(1)	464(-)	757	8
前年比	5(▼6)	▼12(▼4)	▼15(▼2)	22(-)	10(-)	6	▼1
5年平均比	▼55(▼7)	▼10(▼5)	▼17(▼2)	1(-)	▼29(-)	▼52	▼3

注 () 内は30日死者を内数で示しています。

表5 最近5年間の年齢区分別負傷者発生状況

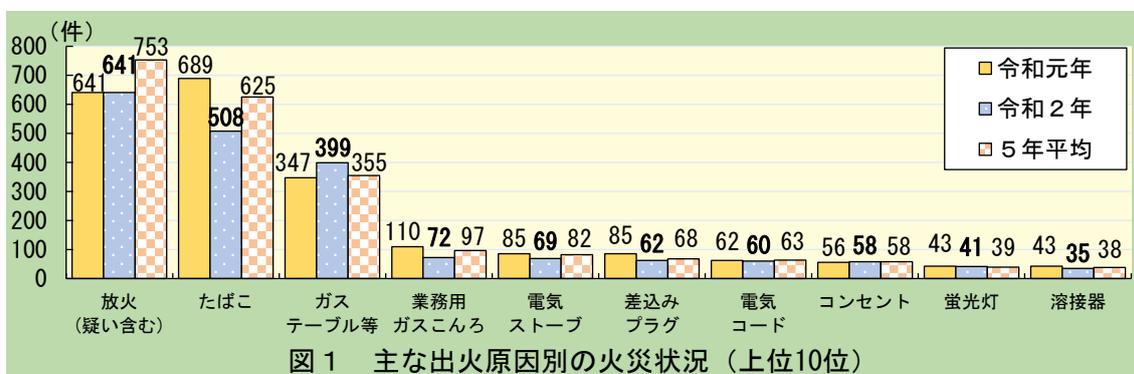
年 別	合 計	年 齢 区 分						
		乳幼児	未成年	成人	不明	高 齢 者		
						小計	前期高齢者	後期高齢者
平成28年	853	11	51	534	-	257	124	133
平成29年	758	10	38	463	-	247	111	136
平成30年	798	8	28	523	-	239	110	129
令和元年	705	11	32	448	1	213	88	125
令和2年	710	18	42	437	-	213	96	117
5年平均	765	12	38	481	-	234	106	128
前年比	5	7	10	▼11	▼1	-	8	▼8
5年平均比	▼55	6	4	▼44	-	▼21	▼10	▼11

- 火災による負傷者は710人発生し、前年と比べて5人(0.7%)増加。
- 年齢区分別負傷者をみると、成人が437人(61.5%)発生し、前年と比べて11人(2.5%)減少。

3 主な出火原因別の火災状況

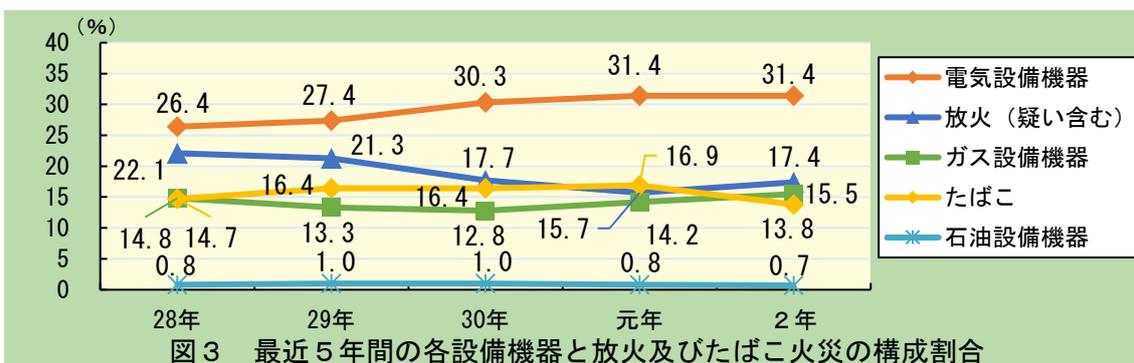
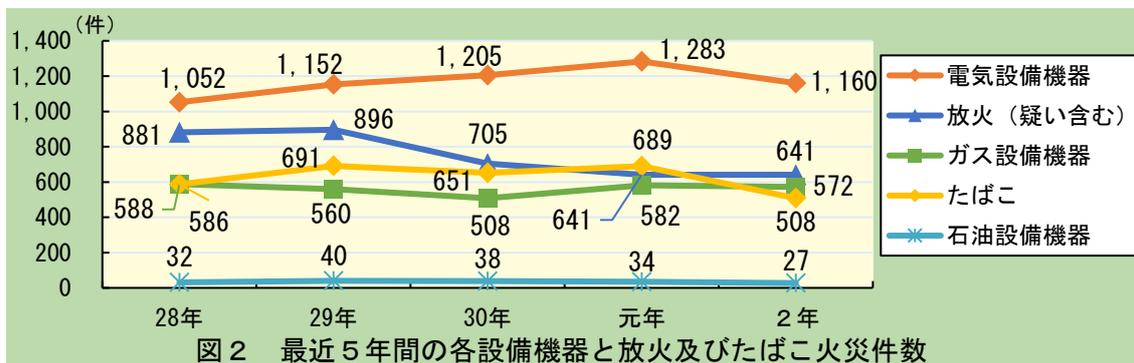
(1) 主な出火原因別の火災状況

主な出火原因別（上位 10 位）の火災状況をみたものが図 1 です。



(2) 設備機器別の火災状況

火災を出火に直接関係したものに電気設備機器、ガス設備機器、石油設備機器に分類し、件数（放火、火遊び、車両から出火した火災を除く。以下同じ。）をみたものが図 2、火災件数（3,693 件）に占める割合をみたものが図 3 です。



- 主な出火原因の最多は、放火（疑い含む）の 641 件で前年と同件数。
- たばこは 508 件で前年と比べて 181 件（26.3%）減少。
- ガステーブル等は 399 件で前年と比べて 52 件（15.0%）増加。
- 電気設備機器の火災件数は 1,160 件で前年と比べて 123 件減少、火災件数（3,693 件）に占める割合は 31.4%で前年と同割合。

4 主な建物用途別の火災状況

建物から出火した火災のうち、住宅火災件数及び住宅以外の用途（上位8位）から出火した火災をみたものが表6、主な火元建物用途別の火災状況（上位10位）をみたものが図4です。住宅以外の用途から出火した火災の主な出火原因をみたものが表7です。

表6 建物用途別の火災状況

年別	建物から出火した火災（合計）	住宅火災			住宅以外の用途（上位8位）								
		小計	共同住宅等	住宅	飲食店	事務所	物品販売店舗等	工場・作業場	病院・診療所	停車場等	学校等	ホテル・旅館等	倉庫
平成28年	2,681	1,497	958	539	345	126	103	89	17	21	33	37	15
平成29年	2,730	1,597	1,018	579	318	151	110	84	24	14	31	36	11
平成30年	2,609	1,484	945	539	330	142	94	90	21	16	40	19	15
令和元年	2,811	1,543	960	583	368	175	112	85	20	20	51	30	15
令和2年	2,600	1,555	992	563	244	156	116	64	27	27	26	20	20
5年平均	2,686	1,535	975	561	321	150	107	82	22	20	36	28	15
前年比	▼211	12	32	▼20	▼124	▼19	4	▼21	7	7	▼25	▼10	5
5年平均比	▼86	20	17	2	▼77	6	9	▼18	5	7	▼10	▼8	5

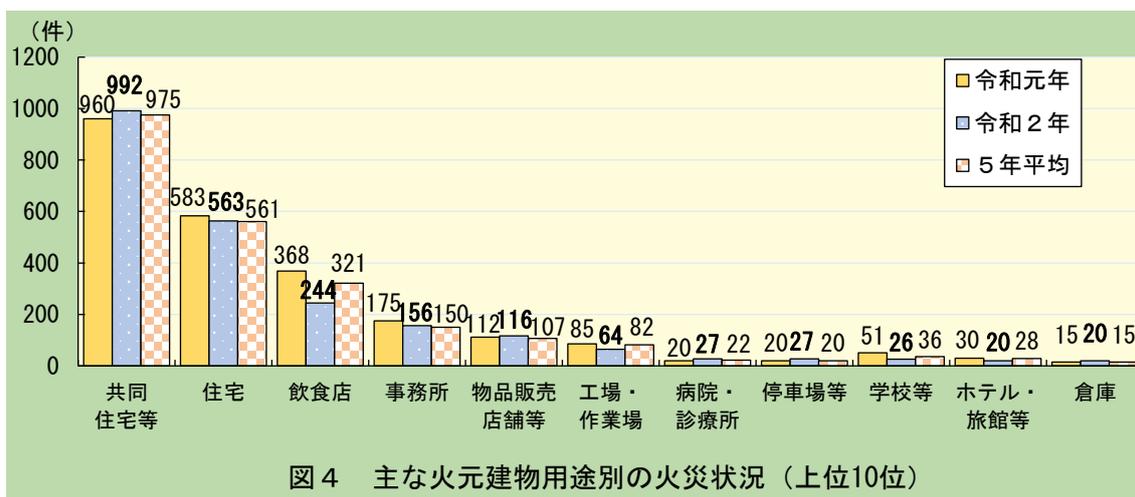


図4 主な火元建物用途別の火災状況（上位10位）

注 事務所は15項のうち事務所、官公署及び銀行の合計です。

- 建物から出火した火災は2,600件で、前年と比べて211件（7.5%）減少。
- 住宅火災は1,555件（59.8%）で6割近くを占め、前年と比べて12件（0.8%）増加。
- 飲食店は244件で、前年と比べて124件（33.7%）減少。

出火原因	合計	ガスこんろ	ガスレンジ	たばこ	コンセント	テーブル等	プラグ	蛍光灯	(疑い含む)放火	屋内線	その他	
飲食店	元年	368	100	38	7	14	9	7	-	6	3	184
	2年	244	61	29	9	9	6	5	4	3	2	116
	5年平均	321	85	28	12	12	11	6	1	4	5	156
	前年比	▼124	▼39	▼9	2	▼5	▼3	▼2	4	▼3	▼1	▼67

出火原因	合計	蛍光灯	電気コード	プラグ	たばこ	屋内線	コンセント	モーター	テーブル等	ストーブ	その他	
事務所	元年	175	9	8	21	9	8	4	1	2	3	110
	2年	156	14	12	12	9	5	5	3	2	2	92
	5年平均	150	9	9	13	10	5	5	2	2	2	94
	前年比	▼19	5	4	▼9	-	▼3	1	2	-	▼1	▼18

出火原因	合計	たばこ	(疑い含む)放火	屋内線	プラグ	電気コード	蛍光灯	コンデンサ	コンセント	ストーブ	その他	
物品販売店舗等	元年	112	4	3	6	9	5	6	1	5	2	71
	2年	116	11	9	7	6	4	4	2	2	2	69
	5年平均	107	5	7	6	7	3	6	1	4	1	66
	前年比	4	7	6	1	▼3	▼1	▼2	1	▼3	-	▼2

出火原因	合計	コンデンサ	溶接器	蛍光灯	ガスこんろ	コンセント	電気コード	ごみ焼却炉	ストーブ等	その他	
工場・作業場	元年	85	3	8	1	-	1	1	-	2	69
	2年	64	6	4	3	2	2	1	1	1	44
	5年平均	82	5	6	1	2	1	2	-	1	63
	前年比	▼21	3	▼4	2	2	1	-	1	▼1	▼25

出火原因	合計	(疑い含む)放火	電気コード	コンデンサ	モーター	蛍光灯	ガスこんろ	その他	
病院・診療所	元年	20	2	2	-	-	1	-	15
	2年	27	4	1	1	1	1	1	18
	5年平均	22	4	1	-	-	1	-	16
	前年比	7	2	▼1	1	1	-	1	3

出火原因	合計	放火 (疑い含む)	たばこ	配電線	その他	
停車場等	元年	20	5	2	-	13
	2年	27	8	3	1	15
	5年平均	20	5	3	-	12
	前年比	7	3	1	1	2

出火原因	合計	放火 (疑い含む)	モーター	蛍光灯	バナー	電気コード	コンデンサ	テレビ	プラグ	その他	
学校等	元年	51	7	1	1	1	2	-	-	2	37
	2年	26	3	2	2	1	1	1	1	1	14
	5年平均	36	5	1	2	1	1	-	-	1	25
	前年比	▼25	▼4	1	1	-	▼1	1	1	▼1	▼23

出火原因	合計	たばこ	放火 (疑い含む)	ロウソク	コンセント	白熱灯	その他	
ホテル・旅館等	元年	30	5	4	1	-	1	19
	2年	20	3	1	1	1	1	13
	5年平均	28	3	3	1	1	1	19
	前年比	▼10	▼2	▼3	-	1	-	▼6

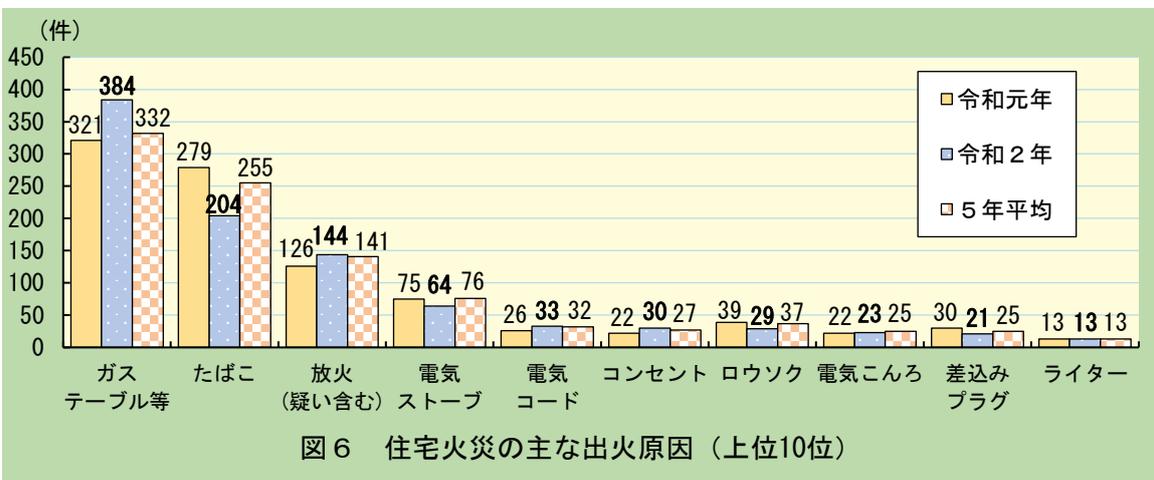
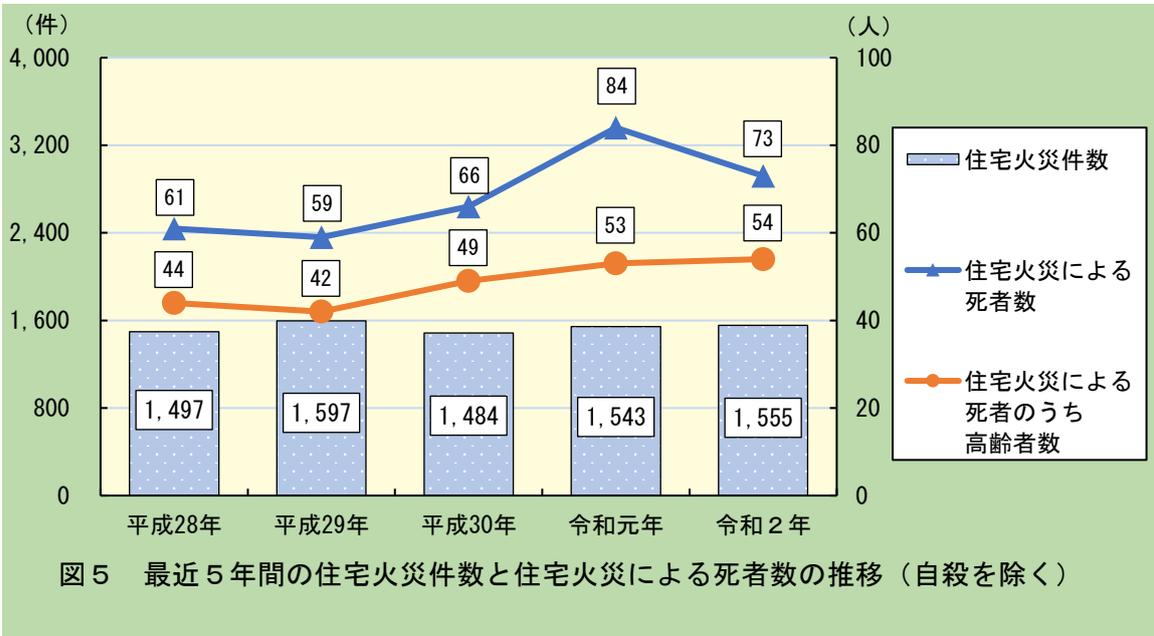
出火原因	合計	放火 (疑い含む)	たばこ	プラグ	火遊び	ガス	業務用	その他
倉庫	元年	15	1	2	-	-	-	12
	2年	20	2	1	1	1	1	14
	5年平均	15	2	1	-	-	-	11
	前年比	5	1	▼1	1	1	1	2

- 飲食店の主な出火原因は、たばこ及び蛍光灯以外の項目で前年と比べて減少。
- 物品販売店舗等の主な出火原因のたばこ及び放火（疑い含む）は、前年と比べて2倍以上に増加。
- 学校等の主な出火原因の放火（疑い含む）は前年と比べて4件減少。

5 住宅火災の状況

(1) 住宅火災及び住宅火災による死者の状況

住宅火災件数と住宅火災により発生した死者数（自殺を除く）をみたものが図5、住宅火災の主な出火原因別をみたものが図6です。



- 住宅火災は、1,400件台から1,500件台で推移。
- 住宅火災の死者は73人(前年比11人減少)発生し、このうち高齢者は54人(74.0%、前年比1人増加)で7割以上を占める。
- 住宅火災の主な出火原因をみると、ガステーブル等が384件(24.7%)で最多、前年と比べて63件(19.6%)増加している。次いでたばこが204件(13.1%)、放火(疑い含む)が144件(9.3%)。

(2) 火元住戸における住宅用火災警報器又は自動火災報知設備、火災安全システム及び警備会社の警報器の設置状況

注1 住警器・・・住宅用火災警報器

2 自火報等・・・自動火災報知設備、火災安全システム及び警備会社の警報器

ア 火災状況

火元住戸における住警器又は自火報等の設置状況をみたものが図7、住警器又は自火報等の設置区分別の火災程度の状況をみたものが図8です。

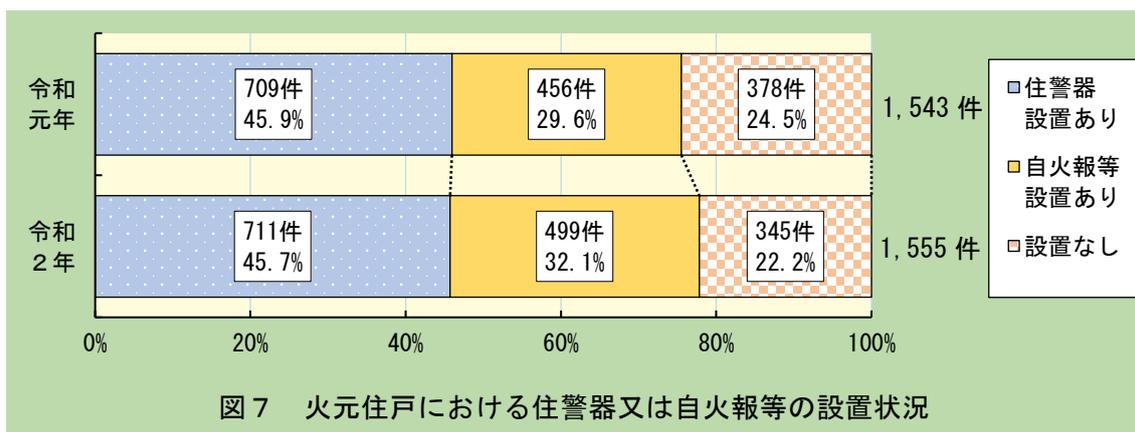


図7 火元住戸における住警器又は自火報等の設置状況

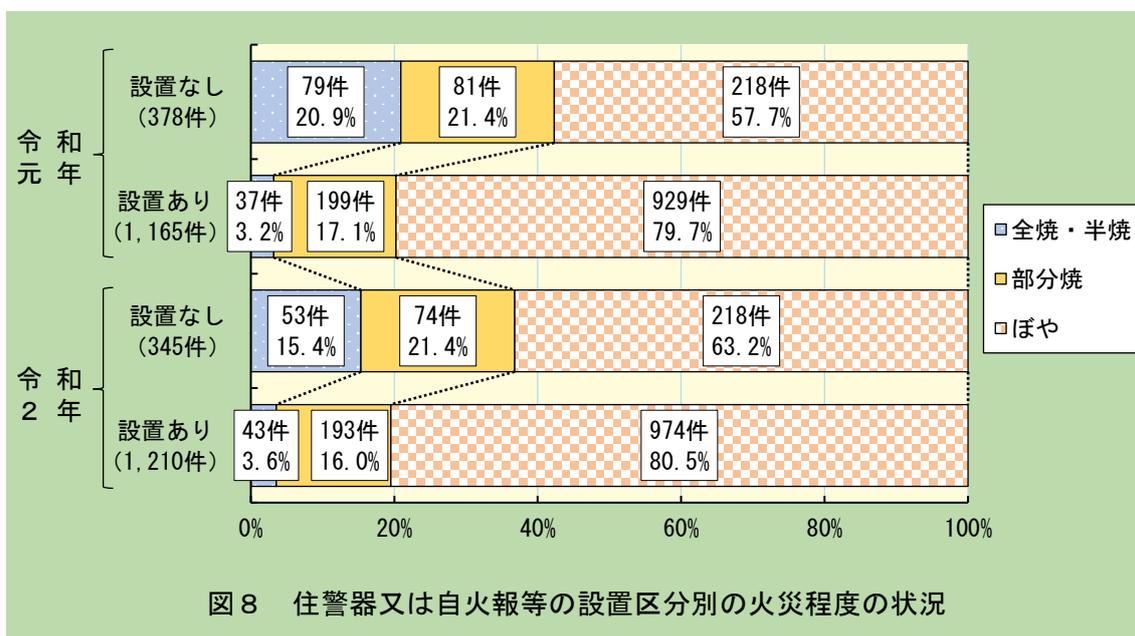


図8 住警器又は自火報等の設置区分別の火災程度の状況

- 住宅火災の火元住戸のうち住警器又は自火報等が設置されていた割合は、77.8% (1,210件) で前年と比べて2.3ポイント増加。
- 「設置なし」の部分焼以上の割合は36.8%で、「設置あり」の19.5%と比較し17.3ポイント高い。

イ 死者の状況

住宅火災による死者（自殺を除く）を火元住戸の住警器又は自火報等の設置状況別にみたものが表8です。

表8 住警器又は自火報等の設置区分別死者の状況（自殺を除く）

設置区分	年別	合計	年齢区分					家族構成				
			乳幼児	未成年	成人	前期高齢者	後期高齢者	一人暮らし者	高齢者含む	一人暮らし以外	高齢者世帯	その他
合計	元年	84	-	-	31	25	28	26	21	16	9	12
	2年	73	-	-	19	14	40	31	16	11	9	6
住警器あり	元年	31	-	-	10	9	12	9	15	3	-	4
	2年	34	-	-	6	5	23	14	10	3	6	1
自火報等あり	元年	10	-	-	5	4	1	2	1	2	2	3
	2年	3	-	-	1	-	2	2	-	1	-	-
設置なし	元年	43	-	-	16	12	15	15	5	11	7	5
	2年	36	-	-	12	9	15	15	6	7	3	5

- 住宅火災による死者のうち火元住戸に住警器又は自火報等が設置されている割合は50.7%で、前年と比べて1.9ポイント増加。
- 住宅火災による死者を家族構成別にみると、高齢者一人暮らしが31人（42.5%）と最多で、前年と比べて5人（19.2%）増加。

6 令和2年中の火災の特徴

(1) 最近5年間の建物から出火した月別火災状況をみたものが表9です。

表9 最近5年間の建物から出火した月別火災状況

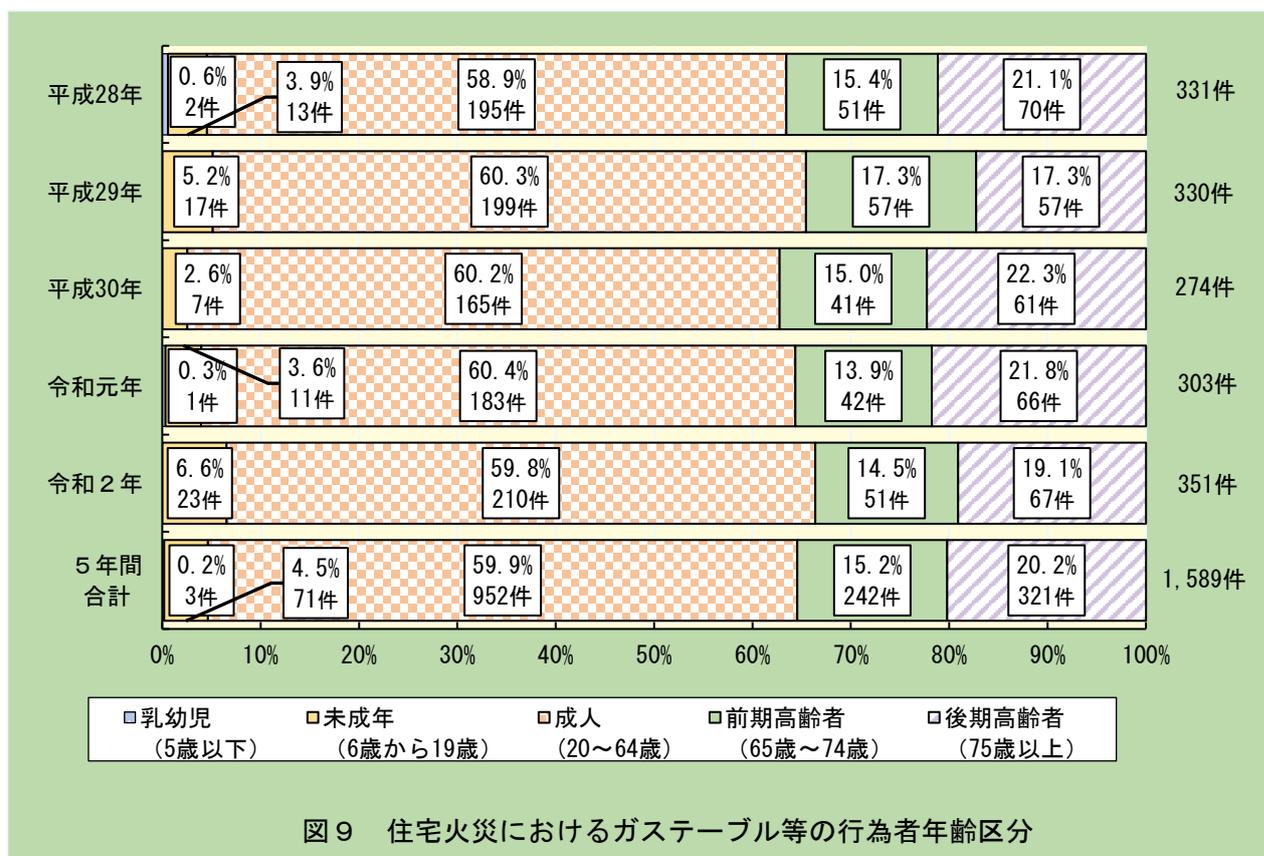
月別	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	13,431	1,413	1,331	1,216	1,105	1,036	973	930	971	896	1,054	1,138	1,368
平成28年	2,681	298	247	230	218	207	201	204	172	174	240	244	246
住宅火災	1,497	186	144	131	129	117	98	95	84	87	148	139	139
住宅火災以外	1,184	112	103	99	89	90	103	109	88	87	92	105	107
平成29年	2,730	287	262	279	221	199	217	178	193	171	198	240	285
住宅火災	1,597	182	167	186	120	113	122	91	96	97	107	139	177
住宅火災以外	1,133	105	95	93	101	86	95	87	97	74	91	101	108
平成30年	2,609	273	266	224	211	212	196	187	195	171	207	198	269
住宅火災	1,484	178	169	133	119	108	92	93	100	92	117	111	172
住宅火災以外	1,125	95	97	91	92	104	104	94	95	79	90	87	97
令和元年	2,811	283	267	252	259	226	185	203	213	202	201	238	282
住宅火災	1,543	175	162	145	152	124	87	90	110	102	98	130	168
住宅火災以外	1,268	108	105	107	107	102	98	113	103	100	103	108	114
令和2年	2,600	272	289	231	196	192	174	158	198	178	208	218	286
住宅火災	1,555	182	156	137	135	140	99	87	115	95	111	116	182
住宅火災以外	1,045	90	133	94	61	52	75	71	83	83	97	102	104

- 住宅火災の火災件数をみると、令和2年は1,555件で、最近5年間で二番目に多い。
- 建物から出火した火災に占める住宅火災の割合をみると、令和2年は59.8%で、最近5年間で最も高く、前年(54.9%)と比べて4.9ポイント高い。
- 住宅火災以外の火災件数をみると、令和2年は1,045件で、最近5年間で最も少なく、前年(1,268件)と比べて223件と大幅に減少。

(2) 最近5年間の住宅火災（7,676件）のうち、ガステーブル等から出火した火災の火災に至った理由別状況をみたものが表10、行為者年齢区分をみたものが図9です。

表10 最近5年間のガステーブル等から出火した住宅火災の火災に至った理由別状況

火災に至った理由	合計	放置する・忘れる	可燃物が接触する	接炎する	引火する	過熱する	誤ってスイッチが入る（入れる）	使用を誤る	考え違いにより	可燃物が沸騰する・あふれ出る	可燃物が落下する	可燃物が転倒する	その他	不明
合計	1,658	694	237	174	130	107	85	95	18	16	9	63	30	
平成28年	339	152	44	32	32	24	11	15	2	3	1	15	8	
平成29年	337	158	35	41	25	19	9	15	4	3	1	18	9	
平成30年	277	117	39	27	19	11	15	26	3	-	1	13	6	
令和元年	321	121	57	30	17	26	26	23	2	3	3	8	5	
令和2年	384	146	62	44	37	27	24	16	7	7	3	9	2	



注 行為者不明（5年間合計69件）を除いています。

- 住宅火災のガステーブル等から出火した火災件数をみると、令和2年は384件発生し、最近5年間で最多で、前年より63件（19.6%）増加。
- 火災に至った理由別をみると、令和2年は「放置する・忘れる」の146件（38.0%）が最も多く、次いで「可燃物が接触する」が62件（16.1%）、「接炎する」が44件（11.5%）、「引火する」が37件（9.6%）、「過熱する」が27件（7.0%）発生。
- 令和2年の火災に至った理由別件数を前年と比べてみると、「放置する・忘れる」の25件増加が最も多く、次いで「引火する」が20件増加、「接炎する」が14件増加。
- 「引火する」(37件)の着火物をみると、「LPG（エアゾール用）」が20件（54.1%）、「LPG（カセット用）」が7件（18.9%）で7割以上を占める。
- 「引火する」の出火場所別でみると、台所・ダイニングキッチン・リビングキッチンで34件（91.9%）発生し、9割以上を占める。
- ガステーブル等の行為者年齢区分別をみると、令和2年の未成年が23件（6.6%）と最近5年間で最も多く、その火災に至った理由別をみると「放置する・忘れる」が7件（30.4%）、「過熱する」及び「可燃物が接触する」が各4件（17.4%）で6割以上を占める。